

# 熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）

昭和16年（1941年）まで、現在の健軍界限、東区役所、陸上自衛隊健軍駐屯地、日赤周辺は、いくつかの集落と広大な田畑が広がっていました。それが、次の出来事で一転しました。

## 1. 「三菱重工業（株）熊本航空機製作所」の建設

昭和16年（1941年）9月 当時の陸軍航空本部から「大型機月産50機」の増産命令。

昭和17年（1942年）6月 熊本市健軍町・上益城郡秋津村・飽託郡廣畑村の広大な畑地に熊本航空機製作所が官設民営工場として建設。

昭和20年（1945年）8月15日 終戦。重爆撃機「飛龍」46機生産で終わる。

約180万坪（594万㎡）にもわたる広大な土地を買収し、工場を建て、付属飛行場を造り、青年学校では技能工を養成し、従業員の福祉厚生施設（社宅・寮・病院など）を建て、道路や排水路を造り、鉄道を引込み、市電を敷き、4万人にもよる人員を集めた。

## 光と影

○三菱が健軍に来たことによって残されたものは、広大な工業用地と青年学校及び寮社宅などの住宅、水源地、病院であったが、それらに起因し波及効果を生み、今日の熊本市東部の発展に寄与。（工場・飛行場・青年学校・寮・社宅用地・水源など）

①熊本航空機製作所→中央紡績（昭和53年閉鎖後は、健軍東小・東町中など  
→健軍駐屯地、→第二高校、→東警察署、・・・など

②青年学校→井関農機（昭和55年移転後は、東区役所など

③三菱病院（湖東地区）→熊本市民病院（令和元年東町へ移転）

④江津荘→県立図書館・近代文学館

◆健軍までの市電の延長 ◆健軍商店街の発展

◆三菱の水源地→健軍水源地・・・「元々は昭和17年に三菱重工業が航空機製作の工場と社員住宅に給水するために開発したものです。戦後、八景水谷水源地だけでは給水が追いつかず、新たな水源地を求めていた本市は、熊本財務局から借り受けて市の水源地とし、同25年に施設のすべてを250万円で買い取った歴史を持ちます。」（市政だより・平成22年1月号より）

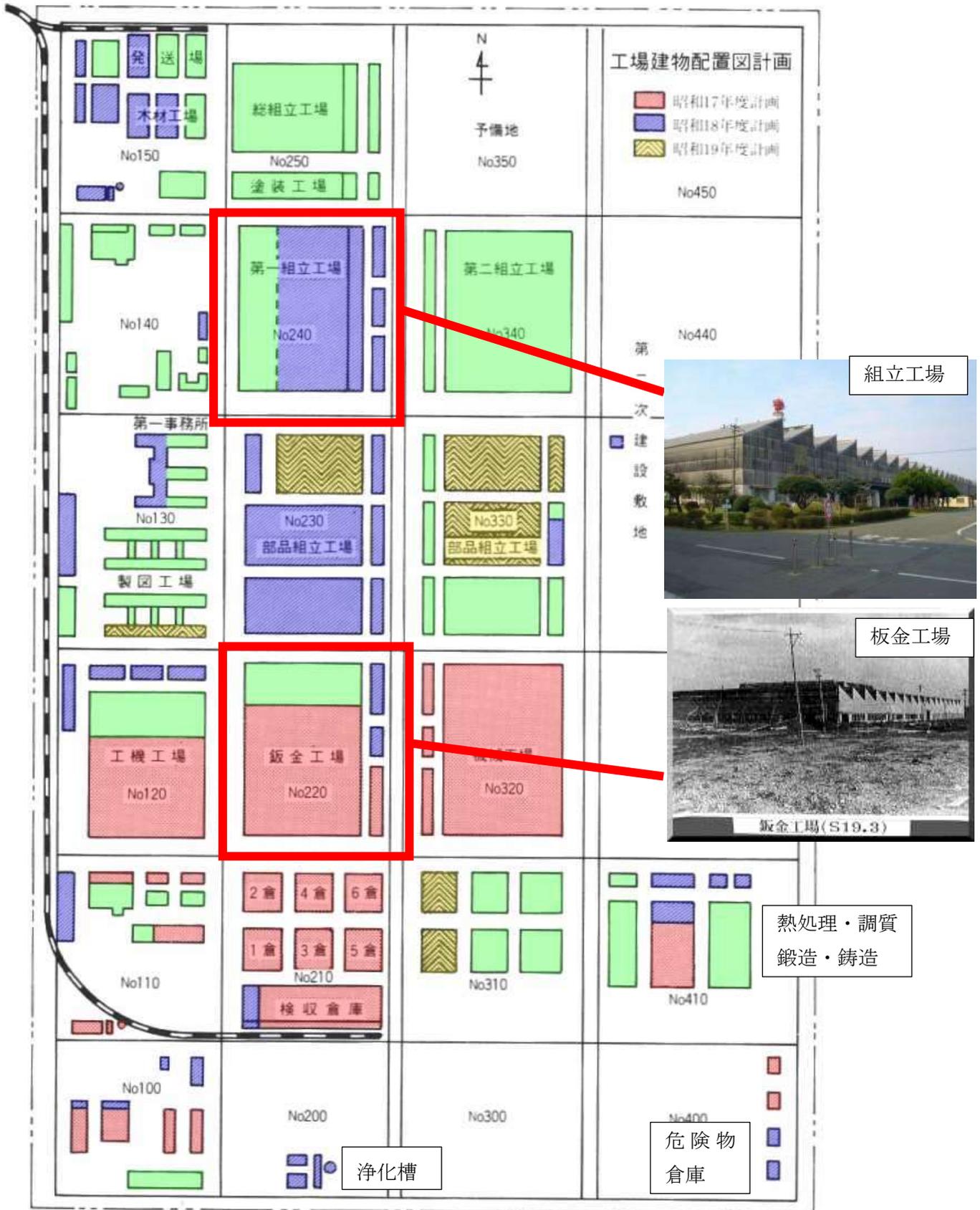
○買収にあたって、数百人に及ぶ地主さんに「召集令状」が出された。市公会堂にて、知事・市長・地元選出議員参列のもとに説明会が開催された。陸軍航空本部は地主に対して「時局の重大性をよく認識され、『土地の赤紙』と思って賛同を得たい」と協力要請を行っている。説明会場周辺には憲兵・警察官が配置されており、耕作者等皆理解ある態度で協力し、異議を唱える者は一人もなく買収発表会は終了した。

○急増する労働力需要に対して国民皆労働体制・学徒動員（国民を強制動員）

### 3. 工場建物配置計画図 (地図上オレンジ色の囲みの部分)

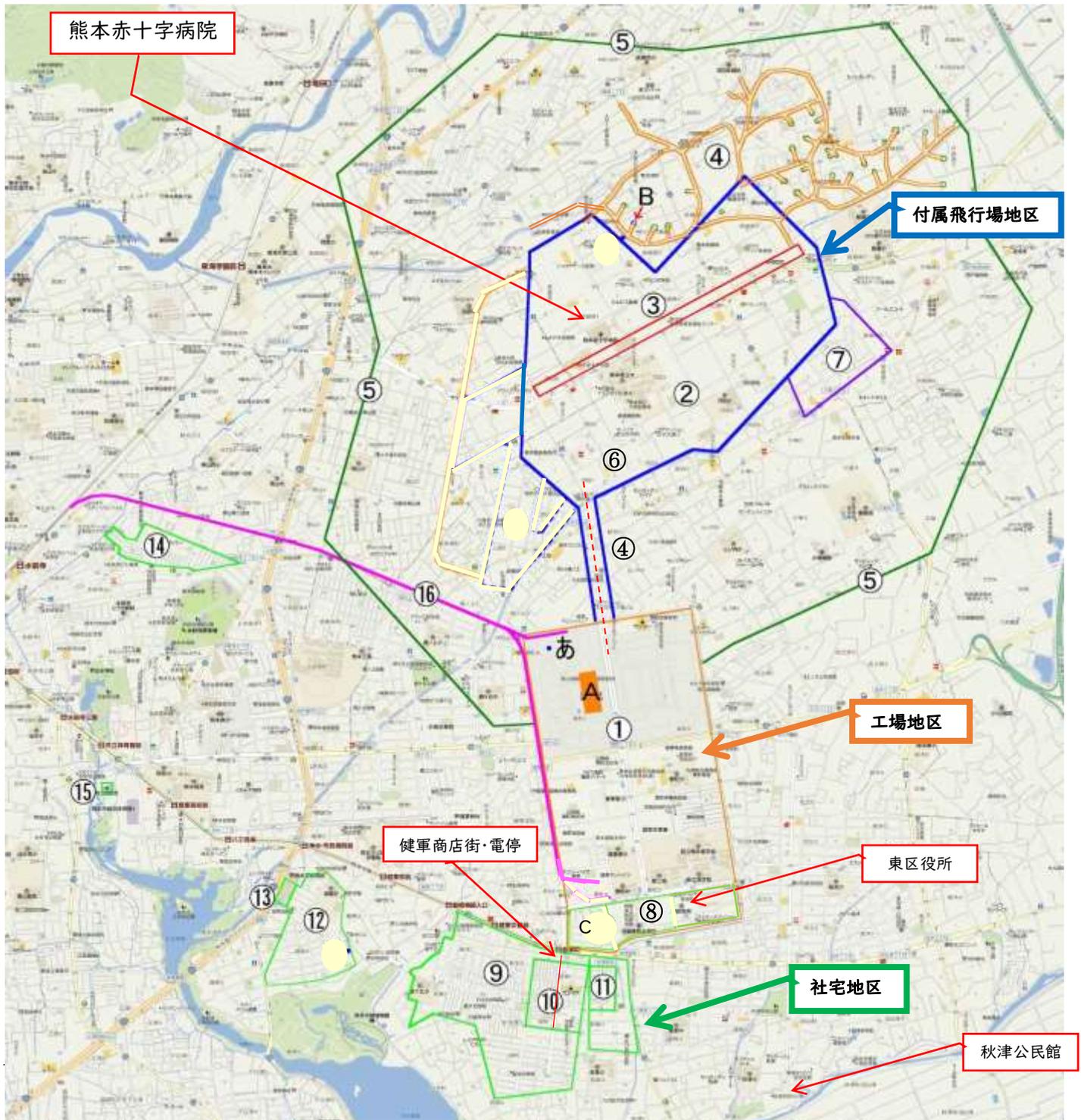
組立工場 (No240) は、現在も自衛隊内にある三角屋根の建物 (地図の A のところ)

引き込み線 (至る水前寺駅)



工場配置図 (停戦時には赤・紫・黄色着色部分のみ完成 (空襲焼失を含む)、緑部分は未建設)  
南側に隣接して運動場・三菱熊本青年学校・実習工場 (西から) がありました。

## 2. 三菱重工業(株) 熊本航空機製作所 関連施設跡 (地図)

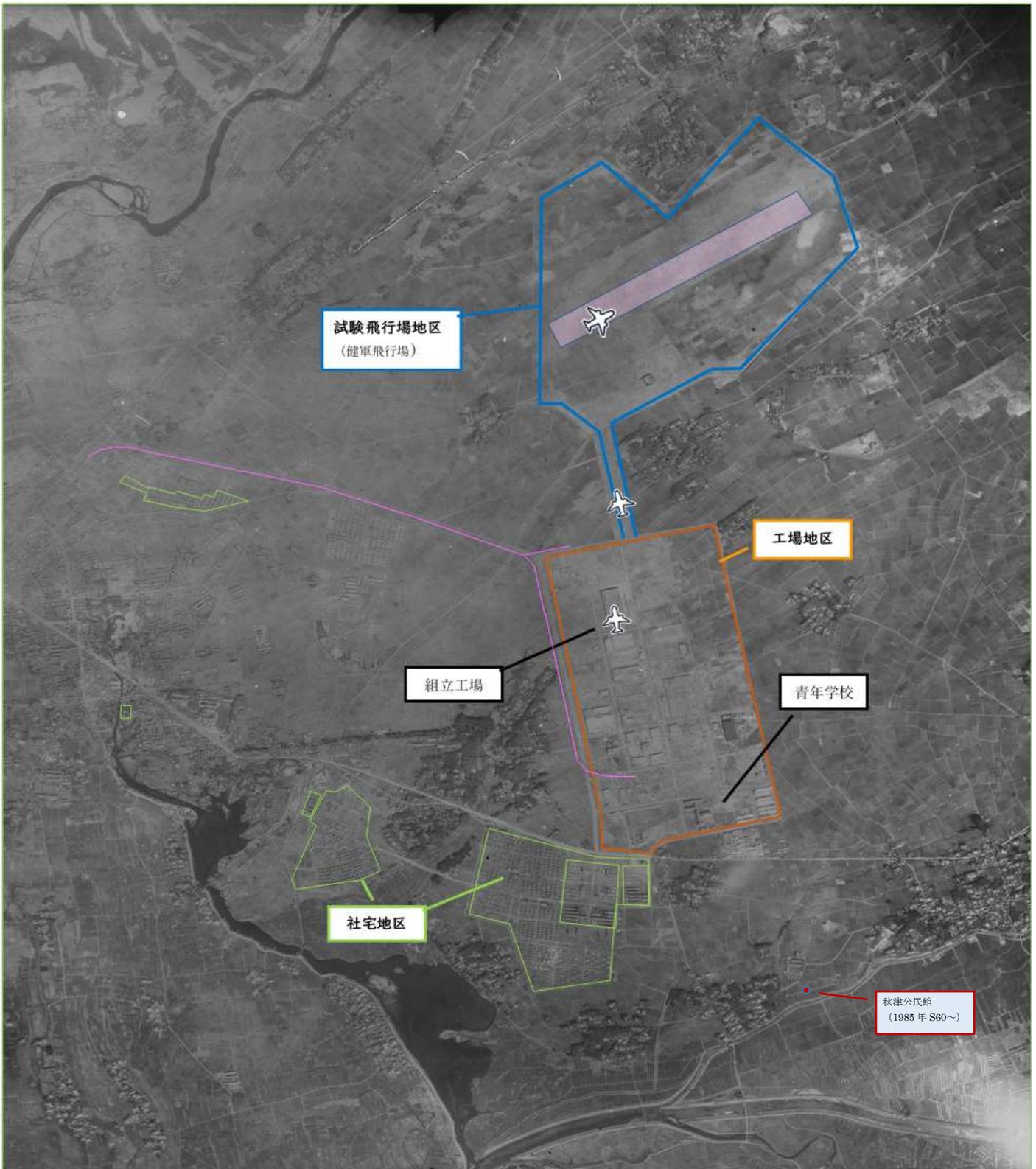


【関連施設名】 ①三菱重工業(株) 熊本航空機製作所(オレンジ) ②試験飛行場(青) ③滑走路(赤) ④誘導路(赤の点線とB周辺のオレンジの路・B周辺の誘導路の先には掩体壕が約30あった) ⑤特別地域指定線(緑) ⑥整備工業 ⑦太刀洗陸軍飛行学校 熊本教育隊(紫) ⑧三菱熊本青年学校(黄緑) ⑨健菱園(工員社宅)(黄緑) ⑩寮(青年学校生徒、独身工員、徴用工)(黄緑) ⑪秋津寮(女子工員、女子挺身隊)(黄緑) ⑫水菱園(職員社宅)(黄緑) ⑬三菱病院(Cの場所に建設が予定されていた)⇒民生病院(⑬報国寮を使用)→終戦後熊本市民病院へ(黄緑) ⑭前菱園(工員社宅)(黄緑) ⑮江津荘(出張者宿泊所、のち本部事務所)(黄緑) ⑯引き込み線(ピンク) 至る豊肥本線

あ・・・「義烈空挺隊の碑」 A・・・組立工場 B・・・掩体壕跡(平成25年まで残っていた)

◆マップ「三菱重工業(株)熊本航空機製作所関連施設跡」・・・関連施設の位置をGoogleマップに書き込みました。

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1puOB84Pkh4rWjWYwpzW-tTciDa5Yb84&ll=32.79265091515033%2C130.74226420945175&z=13>



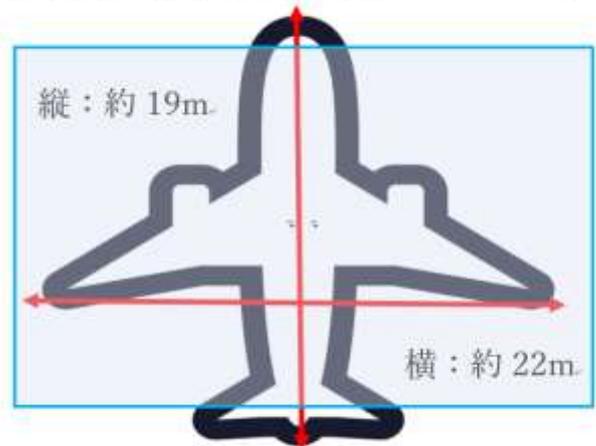
工場地区の敷地が斜めになっているのは、工場のどの場所からも阿蘇連峰が望めるように。

三菱重工業(株) 熊本航空機製作所は、昭和 17(1942)年、陸軍航空本部経理部経理局により土地の買収が行われ建設された官設民営の製作所で、現在は工場地区(オレンジ)が陸上自衛隊・健軍駐屯地、県営住宅、学校に、試験飛行場地区(青色)は住宅地、病院、学校に、社宅地区(緑)は住宅地になっている。 ※上記地図：<https://mapps.gsi.go.jp> 国土交通省「地図・空中写真閲覧サービス」(「作成・撮影年」を指定し検索すると地図を見ることができます)

#### 4. 陸軍重爆撃機「飛龍(キ-67)」(熊本航空機製作所で作られていた飛行機)



(重爆撃機) 飛龍(ひりゅう) 大きさ(25m プールとの比較)



※(比較) 現在旅行などで乗るのは「旅客機」(定員 200 人) 等は、全長約 50m、幅約 50m

[http://www.sashipro.com/?page\\_id=1289](http://www.sashipro.com/?page_id=1289)

### 飛龍 (キ-67) 【仕様】

機 体	【全幅】 22・5m 【全長】 18.7m 【全高】 7.7m 【重量】 3,765 kg 【乗員】 6~8 人
性 能	【最大速度】 537 km/h 【巡航速度】 400 km/h 【航続距離】 3,800 km
武 装	【単装旋回砲】 12.7mm 6 門 【連装旋回砲】 12.7mm 1 門 【旋回砲】 20mm 2 門 【爆弾】 800 kg
発動機	【型式】 空冷 2 重星型 18 気筒 【基数】 2 基 【離昇出力】 1,900 馬力 【燃料】 3,885ℓ

## 5. 掩体壕（えんたいごう）（地図Bの地点）

長嶺西2丁目12番（字迎八反田居屋敷）

掩体壕とは戦闘機や爆撃機を敵の襲撃から守るための飛行機用防空壕（シェルター）。

太平洋戦争中、飛行機を空襲から守るために、菱形に土塁を築いた（又はコンクリート製）飛行機用の防空壕。誘導路で縦横に結ばれていた。

戦闘機用のコンクリート製有蓋型は各地（大分、松山、千葉等）に残っているが、重爆撃機用の土製の無蓋型が当時の姿で残っているのは難しいとされている。

ここにあったのは、天井が無い無蓋型土塁の掩体壕。幅は、外縁部36m、内縁部22m。奥行きは外縁部35m、内縁部27m。高さは最大2.4mで出入り口は低くなっている。上空から見つからないように草木を被せてカモフラージュしていた模様。誘導路で滑走路とながっていた。この周辺には、たくさんの誘導路があり、その先に掩体壕があった（約30）。

平成25年5月の連休明けに、更地にされた。

誘導路あとは1本残っている。（託麻西小北を通り神園山麓に到る道路）

### 【掩体壕跡地を確認できます】

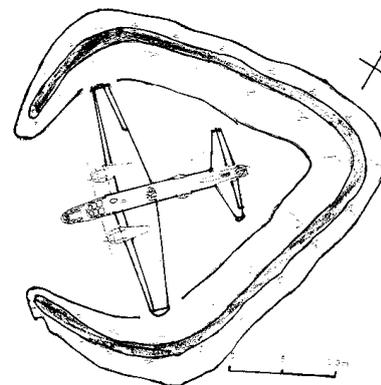
「地図・空中写真閲覧サービス」を利用し昭和22年頃の試験飛行場北東（長嶺）周辺の航空写真を拡大して見ると、たくさんの掩体壕の跡（下の図のような形）を確認することができます。



（写真提供：「九州ヘリテージ <http://kyushu-heritage.jp>」）

飛龍の模型を合成

貴重な戦争遺産であったが、平成25年5月に更地にされた。



（写真提供：田中穂積さん）

※（参考）新たに発見された掩体壕跡について

・平成30年3月27日版熊本市戸島町で発見された旧健軍飛行場無蓋掩体壕（第3報）

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク <https://kumamoto-senseki.net/images/2018/20180327.pdf>

## 特別攻撃隊 義烈空挺隊

陸上自衛隊健軍駐屯地には、健軍飛行場より飛び立った

“義烈空挺隊”の慰霊碑が建立されています。

※義烈空挺隊(ぎれつくうていたい)とは、敵飛行場に輸送機で強行着陸して、敵航空機と飛行場施設を破壊することを目的とした旧日本陸軍の空挺部隊で編成された特殊部隊である。沖縄戦期間中の1945年5月24日に、連合軍に占領されていた沖縄の嘉手納飛行場と読谷飛行場に攻撃を行った。

※場所…「2.三菱重工業(株) 熊本航空機製作所 関連施設」 「あ」の所



### 【参考資料】

- ・平成31年度 秋津公民館主催講座「戦後74年・秋津(あさひば)の地名と戦争遺産」資料  
講師:中村 安幸さん
- ・新熊本市史
- ・『健軍三菱物語-熊本は東へ』岡野 允俊/編集
- ・くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 資料